

気仙沼 風待ちマップ

マップを片手に個性のある建物をめぐってみませんか？



◆男山本店客座敷



◆男山本店酒造蔵

仕込蔵などの酒造施設と接客用の和風建物が敷地内に建てられています。

- …昭和初期の建物(被災し滅失した建物もあります)
- …風待ち研究会が調査した建物(気仙沼風待ち復興検討会の前身)
- …被災し滅失した建物
- …国登録有形文化財



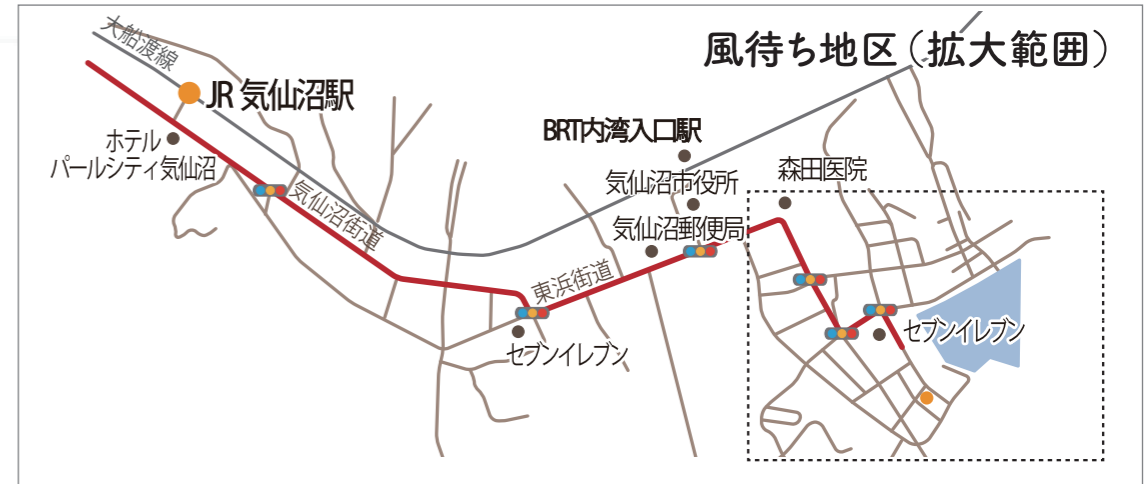
←◆旧平野本店店舗及び住宅
藍染め工房に活用されています。
(風待ち地区から徒歩約15分)

一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会
<https://kazamachi.jp/>
HP

このマップは2023年度
公益信託仙台銀行まちづくり基金の助成により
作成しました

風待ち協力金のお願い
ぜひこれらの歴史的建造物の保存・活用の社会的意義をご理解いただき、さらなるご支援をいただけますよう、なにとぞ、よろしくお願いたします。
【お振込み】七十七銀行 気仙沼支店 普通預金5497477
一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会

【お問合せ先】
気仙沼市教育委員会 生涯学習課文化振興係
電話 0226-22-3442
メール k.kazamachi@gmail.com(一社)気仙沼風待ち復興検討会



東京駅 → 一ノ関駅(新幹線で約2時間30分)
一ノ関駅 → 気仙沼駅(大船渡線で約1時間25分)

小野健商店土蔵

昭和 21 年に建築された土蔵です。伝統的な土蔵建築で、海鼠壁や鏝絵などの凝った造りがみられます。現在地での創業は大正 5 年。魚問屋、マグロ船の経営、仲買をしていました。明治時代は魚町にあったといひます。屋号はマルヤマコで、先々代の小野寺健之助さんの頭文字を頂き店名にしたといひます。

震災では外壁がはがれ、装飾が破損するなどの大きな被害を受けました。SOC 基金により、応急の壁工事が行われました。平成 29 年 6 月に修復が完了しました。



武山米店店舗・主屋

昭和 2 年の米店兼住宅です。町家のようですが、表に銅板を貼り装飾的な造りにしています。実はこの家の敷地は扇形。敷地に合わせたとても凝った造りです。創業は明治初期。大正・昭和の大火に遭遇しましたが、引き続きこの地で米穀商を営んでいました。初代が結婚記念で購入したという精工舎製（現 SEIKO）の柱時計は再建後も時を刻んでいます。屋号は「ヤマゴ」。

震災では一階部分が津波で大きくさらわれました。SOC 基金等により応急の補強工事が行われましたが、一度解体してから平成 30 年 4 月に再建しました。



三事堂ささ木店舗・土蔵

大正期の陶器店兼住宅、土蔵です。数少ない昭和 2 年大火前の建物になります。土蔵と洋風建築を並べた和洋折衷のデザインが特徴です。創業は明治 41 年。商売の創業は先々代の佐々木三治（事）さんです。山に「ニ」でヤマニの屋号は、さらに上を目指す意で、三治さんの「三」を山に見立て、その中に「ニ」を入れて、掛けてあるとのこと。

震災で外部の海鼠壁や内部に被害を受けました。SOC 基金等により修復し、平成 29 年 6 月に修復が完了しました。



角星店舗

昭和 2 年大火後の酒造店です。魚町の屋号通りに面し、歴史的町並みを形成していました。伝統的な塗り家造りとなっています。この家も敷地が平行四辺形と不整形なのですが、海側に正面を向けるため、瓦や腕木に角度をつけています。創業は明治 38 年。創業時、折壁室根神社に清酒を拵に入れて献上したところ、明けの明星が御神鏡にうつり、その光が献上の酒に丸やかに輝き、屋号を角星と決めたそうです。銘柄は、陸中、陸前の両国にまたがった酒屋であるため「両国」としたそうです。

震災で一階部分が流され、二階も敷地の奥に流されました。SOC 基金により、応急的に元の位置に曳き家して戻し、一度解体してから平成 28 年 11 月に再建しました。



男山本店店舗

昭和 2 年大火後の酒造店です。魚町の屋号通りに面し、歴史的町並みを形成していました。三階建ての古典様式調の建築です。沖の漁船から目立つパラペットの装飾と「男山」の屋号が印象的です。創業は 1912 年。小売時代に塩竈阿部勤の「男山」を販売しており、自家清酒も「男山」「伏見正宗」としたそうです。

震災で漁船が衝突したようで、一、二階が破損し、三階だけが瓦礫の上に残されました。その様子は、震災の象徴として多くのメディアにも取り上げられました。SOC 基金により、応急的に元の位置に戻し養生し、その後、残された部材を丁寧に解体・保管し再建に使用しました。令和 2 年 7 月 15 日について店舗が開店しました。



男山本店客座敷

昭和 7 年に接客のために建てられた平屋の和風建物です。男山本店店舗から少し北の谷あいにある酒造蔵の敷地入口に建ち、南側に和風庭園を望むことができます。戦後は住まいとして利用されていたそうです。

震災ではすぐ手前まで津波がきましたが被害を免れました。

2018 年に国登録有形文化財となり、同年、内湾に面した男山本店店舗と連携した酒蔵見学者の休憩、販売所として再生しました。



男山本店酒造蔵

大正 3 年頃に建てられた酒造蔵です。内部は東から三号蔵、仕込蔵、中蔵が並び、下屋に煙突付釜場や、酒を絞出すための槽場（ふなば）など酒造のための一連の施設があります。道路をはさんで西側には瓶詰工場もあります。

震災では、敷地のすぐ手前まで津波がきましたが被害を免れました。

この酒造蔵は 2021 年に国登録有形文化財になりました。事前予約で見学が可能です。



千田家住宅主屋・土蔵・石蔵

主屋は昭和 2 年大火の後に建てられました。附属する石蔵と土蔵は大火を乗り越えた建物です。角地に建ち、交差点に対して大きくカーブを描いた壁面が特徴です。2階には丸窓が付き、煙突のような出窓が 2階から 3階パラペット上まで延び、船のイメージを漂わせています。建物を建てたのは「富貞商店」といい、大正から昭和にかけて建設資材問屋を営んでいました。戦後に千田家が所有し、縄やロープの製造販売、タクシー業などを営み、近年はテナントに利用されていました。屋号は「胆沢屋」。

震災で津波が 2 階まで浸水し内外に大きな被害を受けました。SOC 基金等により一部修理が行われ、令和 2 年 7 月に終わりました。



旧平野本店店舗兼主屋

大正 10 年に建てられた建物です。創業は大正初期で、品雑貨等の販売、のちに味噌醤油醸造の販売を行っていたそうです。その後、大内料理学院として利用されていました。外観は洋風ですが、室内は和風の部屋です。変形した敷地に合わせ部屋や廊下も変形しています。

震災では大きな被害を免れました。2019 年に国登録有形文化財になり、現在は一階が藍染め工房として活用されています。



齋藤茶舗店舗・土蔵

大正 4 年に建てられたお茶屋さんで、創業は明治 30 年です。屋号は「マルト」でお店の正面看板にも見ることができます。T 字路の突き当りがあるのでランドマークとなっています。店舗裏側には海鼠壁が立派な土蔵もあります。

震災では津波が 2 階部分まで浸水しました。現在も、お茶のほか、茶器やお茶菓子などを販売しています。



カトリック気仙沼教会聖堂

明治 42 年に、ゴシック様式を基調とした聖堂として建てられた県内最古のカトリックの聖堂です。設計はフランス人の神父といわれています。堂内にはステンドグラスがはめられ、白い壁にとっても鮮やかで、荘厳な美しさを感じさせます。震災では大きな被害は免れました。

クリスマスには写真のように、建物正面に流れ星のイルミネーションやリースが飾られ賑やかになります。



- ◇プロジェクト未来遺産 2018(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟)「気仙沼港と風待ちの風景～歴史的建造物の復興プロジェクト～」が登録されました。
- ◇日本遺産(文化庁)「みちのく GOLD 浪漫 —黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる—」が認定され、「気仙沼港と風待ちの風景」はその構成文化財になっています。(2019 年)
- ◇ユネスコ無形文化遺産 日本の「伝統的造り」が登録され、風待ちにある酒造店の角星店舗と男山本店の追い風にもなっています。(2024 年)

「SOC」(東日本大震災被災文化財復旧支援事業、Save Our Culture) 東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、被災地域主導での復旧活動を広く国内外に支援を訴えるキャンペーンです。文化財保護・芸術研究助成財団とワールド・モニュメント財団が連携し、文化庁の協力を得て実施されています。